



2019年12月期 通期決算説明会資料

2020/02/25

株式会社Welby
(証券コード 4438)

目次

1 会社概要

2 2019年12月期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料



“Empower the Patients”

患者が、自ら情報を得て、自ら行動して、自ら判断する



Now



Future

PHR (Personal Health Record) のリーディングカンパニー

会社名	株式会社Welby
設立	2011年9月20日
主要事業	医療機器及び関連ソフトウェアの製造・販売・運用（医療機器製造販売許可業）
医学顧問	自治医科大学 小谷和彦教授、他各領域専門医20名以上
主要顧客	中外製薬株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、マルホ株式会社、アストラゼネカ株式会社、武田薬品工業株式会社、ファイザー株式会社、小野薬品工業株式会社、徳島大学病院など医療機関多数
提携・連携	株式会社デジタルガレージ、日本郵政株式会社、株式会社スズケン、株式会社ベネフィット・ワン 等

主な提携/連携パートナー



主な提携/連携パートナー

医療機器製造販売業 第二種
情報セキュリティマネジメントシステム
(ISMS) の国際規格ISO27001認証



IS646329 / ISO27001

【臨床研究】
徳島大学（糖尿病）
自治医科大学/国分寺さくらクリニック（高血圧）
名古屋大学（慢性腎臓病）
大阪市立大学（非アルコール性脂肪肝炎）
聖マリアンナ医科大学病院（胃がん）

総務省 戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）

「治療アプリ」として、PHRを処方する時代に

～医療機関にて患者に疾患別アプリを紹介：糖尿病、高血圧、がん 等～

1 医師が患者にアプリを紹介

クリニック専用パンフレットで案内
クリニック専用アプリを提供



2 患者自身がかんたん記録

バイタル / 食事 / 運動 / 処方(QRコード) /
検査値(QRコード)等測定機器と連動

Bluetooth® HRジョイント。



4 療養指導を効率的/効果的に 患者の治療が継続

継続患者が増える

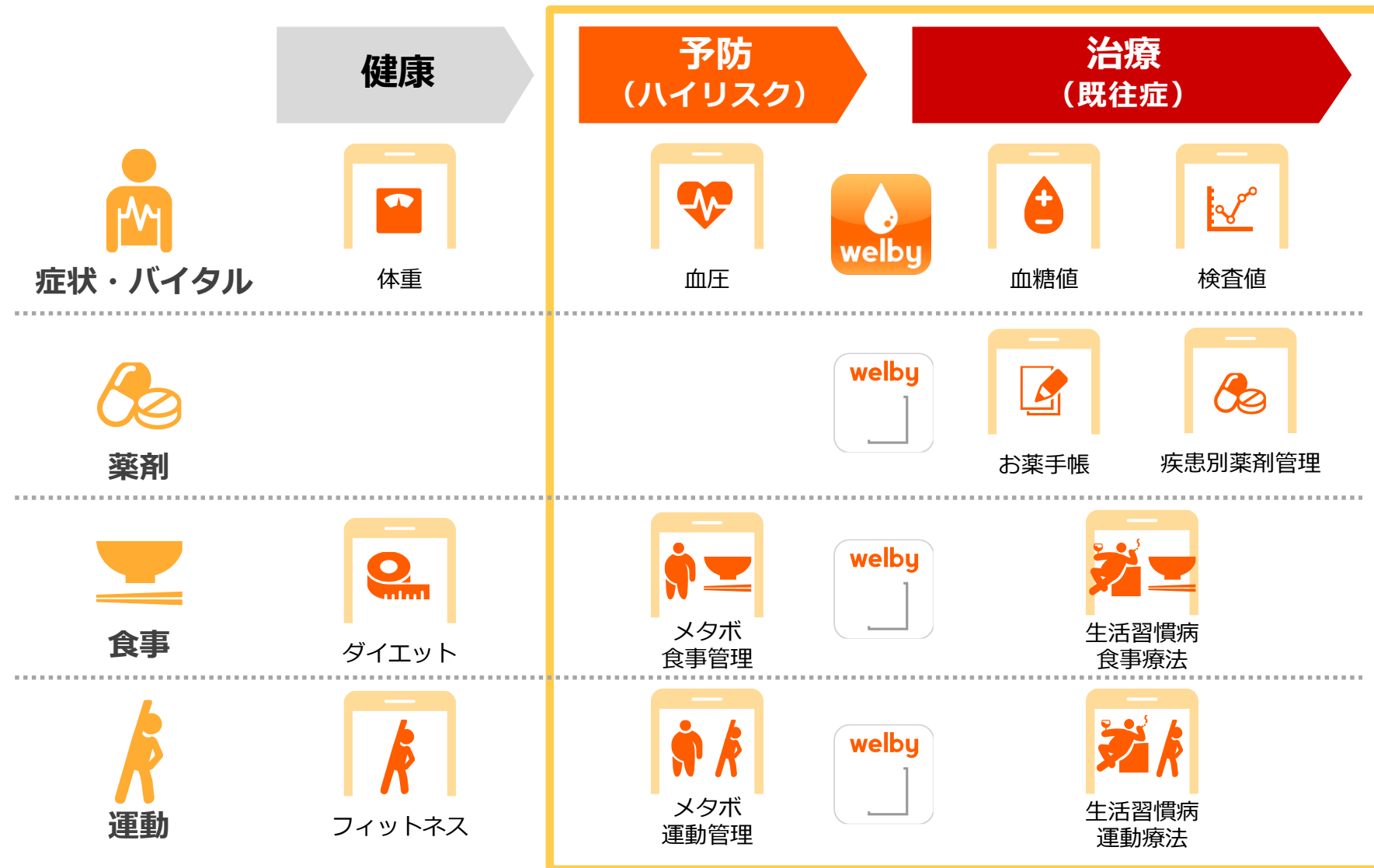


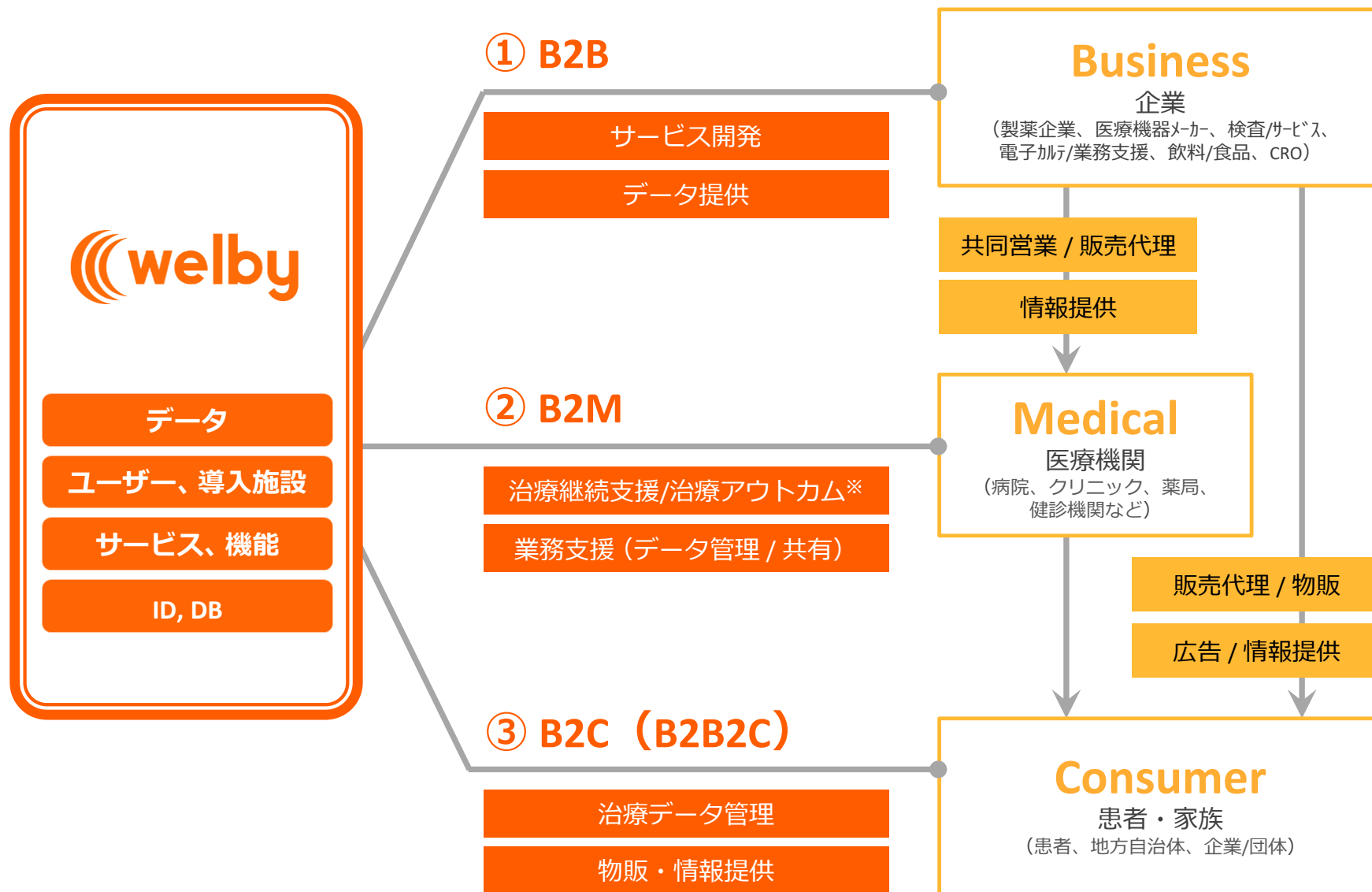
3 データをグラフ化、印刷 データは医療機関と共有

医療機関の
PC / タブレット等で確認



治療領域に特化したPHRプラットフォームサービス





※治療や予防などの医学的介入から得られるすべての結果のことを指す。
臨床研究においては、介入効果によって得られる判定項目をアウトカムという。

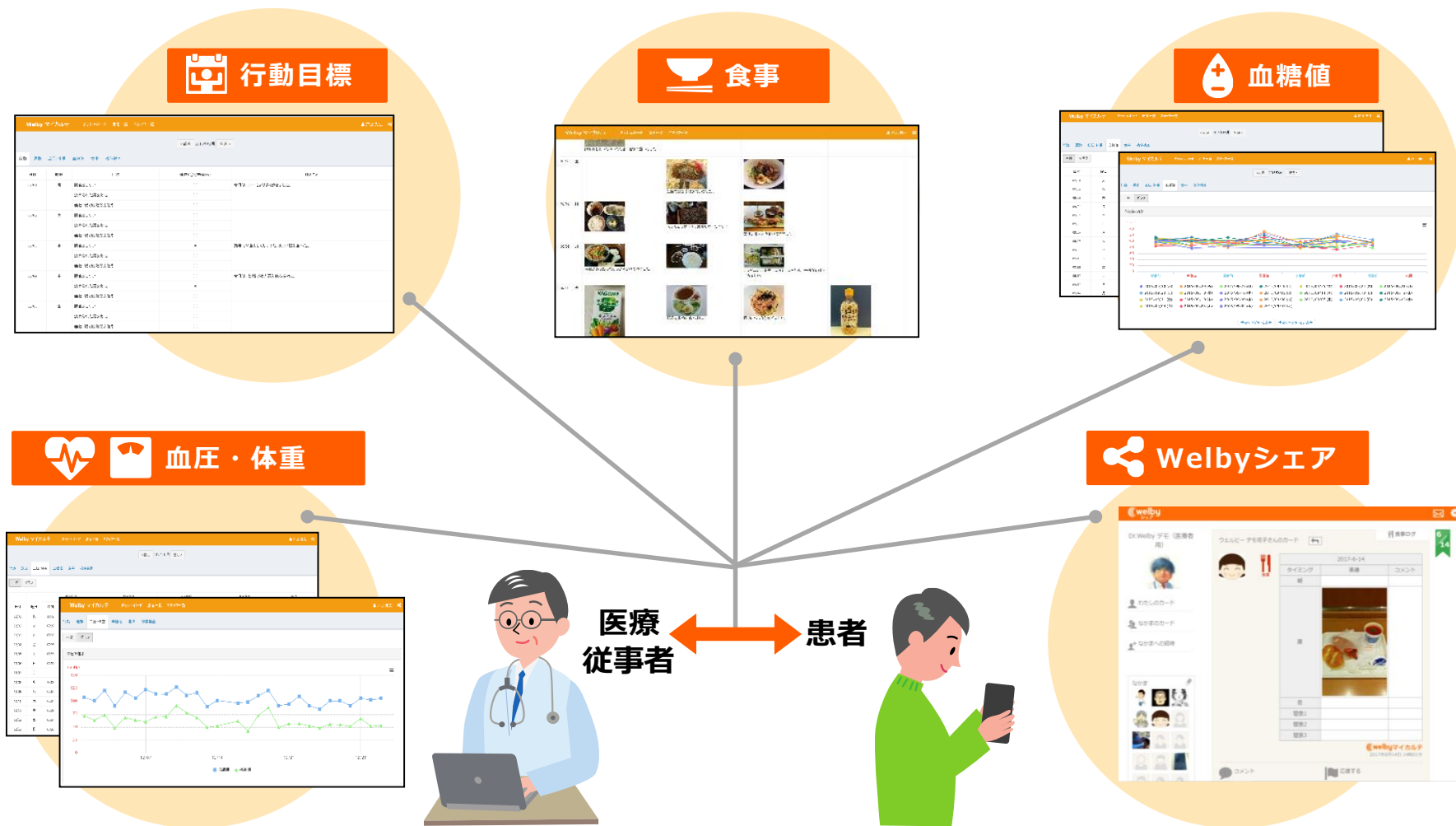
「Welbyマイカルテ」

～生活習慣病（糖尿病/高血圧症）向けPHR～

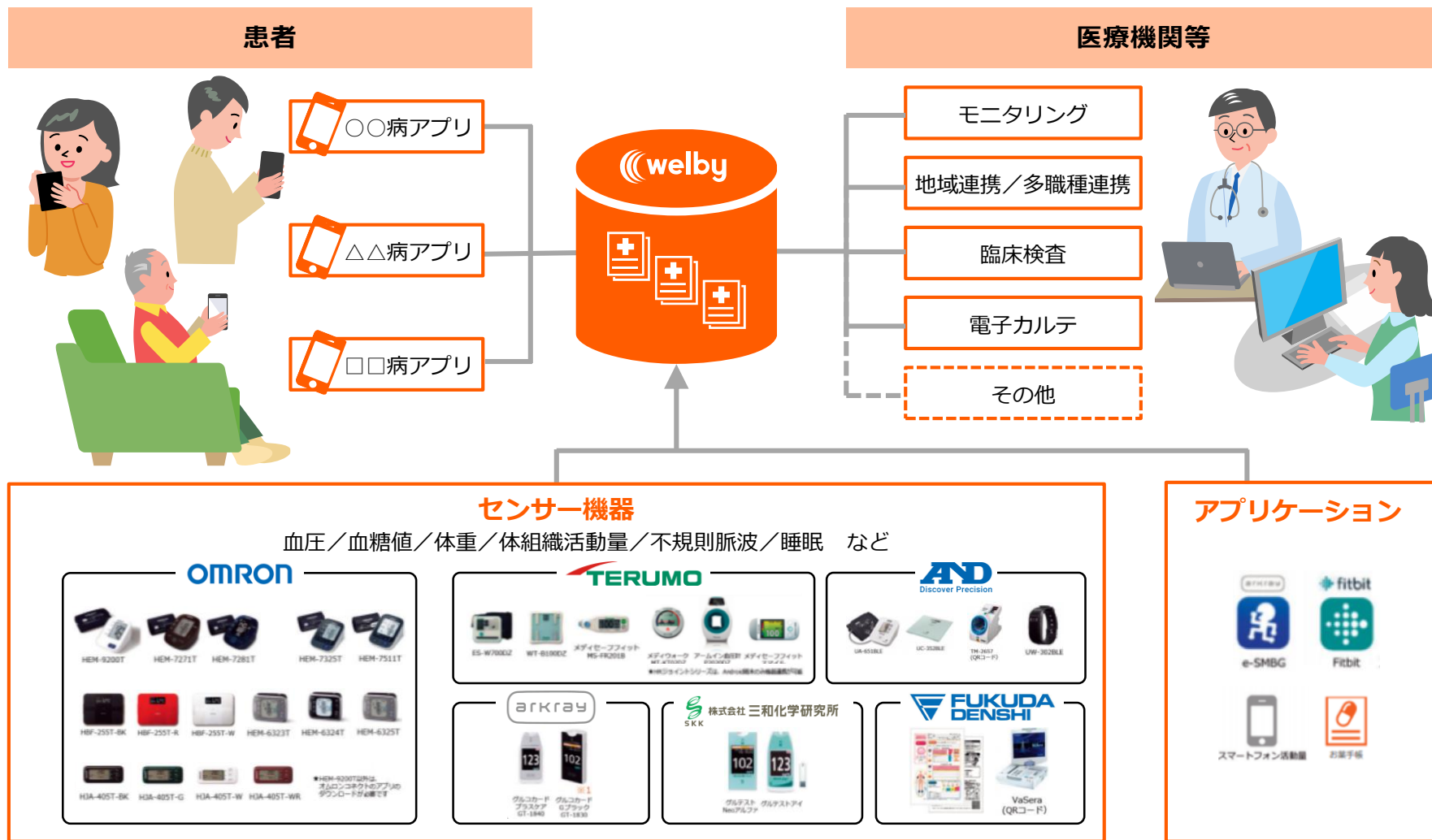


記録内容・方法	測定項目
行動（生活習慣の目標管理/ToDo）	行動目標達成率
運動（歩数/距離） 活動量計と連携	歩数(歩) / 距離(km) / 消費カロリー
体重 体組成計と連携	体重 (kg)
血圧（血圧/脈拍） 血圧計連携	血圧 (mmHg) / 脈 (拍/分)
血糖値 血糖測定器連携	血糖値 (mg/dl)
おくすり 電子お薬手帳/ 処方箋QRコード	服薬記録
食事 スマホ・カメラ利用	食事の写真
睡眠 活動量計と連携	睡眠時間 / 睡眠強度
血管年齢 QRコード利用	CAVI
検査値 検査データ連携/ QRコード利用	HbA1c / コレステロールなど

患者のデータ(PRO: Patient Reported Outcome)を医療従事者がリモートで管理 患者と食事の写真やデータを見ながら遠隔でコミュニケーション



各種医療サービス・機器と連携可能な患者起点のデータプラットフォーム



目次

1 会社概要

2 2019年12月期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

新たなステージへ

東証マザーズ市場へ新規上場（3月）

製薬会社スポンサーの新たな疾患領域のアプリリリース

アトピー、ざ瘡、血友病、SLE※、胃がんなど新たな疾患領域でのPHRサービス拡大（随時）

自社プラットフォームの開発、強化

がん向けPHRプラットフォーム「マイカルテONC」完成（12月）
生活習慣病向け「マイカルテ」の機能強化 [機器連携の拡張、心房細動対応等]（随時）

有力なプレイヤーとの提携拡大

「株式会社ベネフィット・ワン」と企業・健保向け健康管理サービスで業務提携（10月）
「株式会社スズケン」と医療機関へのPHR普及や新商品開発で資本業務提携（11月）

※ SLE=全身性エリテマトーデス

ニキビ治療完遂を目指した疾患教育×治療継続の仕掛けで ニキビができにくい肌の実現をサポート



maruho

2019年3月リリース



症状管理が
かんたん♪

Point : アプリ専用のクラウドDBで画像保存するので、プライベート写真と分けて管理ができる！



Point : 写真を部位ごとにタグ付け保存, ソートし比較が可能

Point : 治療のマイルストーンを目標日数で提示
⇒ 治療継続をサポート！



ニキビに良い
正確な情報を知りたい...



Point : 患者向け疾患啓発Webサイトと
連動し良質な情報コンテンツを配信

- ①患者向け疾患啓発Webとの連動
- ②日々の利用で知識をインプット
- ③マイルストーンによる治療継続の仕掛け
- ④治療効果を部位毎に画像で振り返り

かゆみ度合の記録と見える化、皮膚の写真記録を通じて スキンケアをサポートし、アトピー治療の質を向上



maruho

2019年5月リリース



カメラロールが
すっきり♪



Point : 肌状態に影響する乾燥・UV・花粉情報をホーム画面で確認（花粉情報は2～5月のみ表示）



Point : 写真を患部ごとにタグ付け保存, ソートし比較が可能



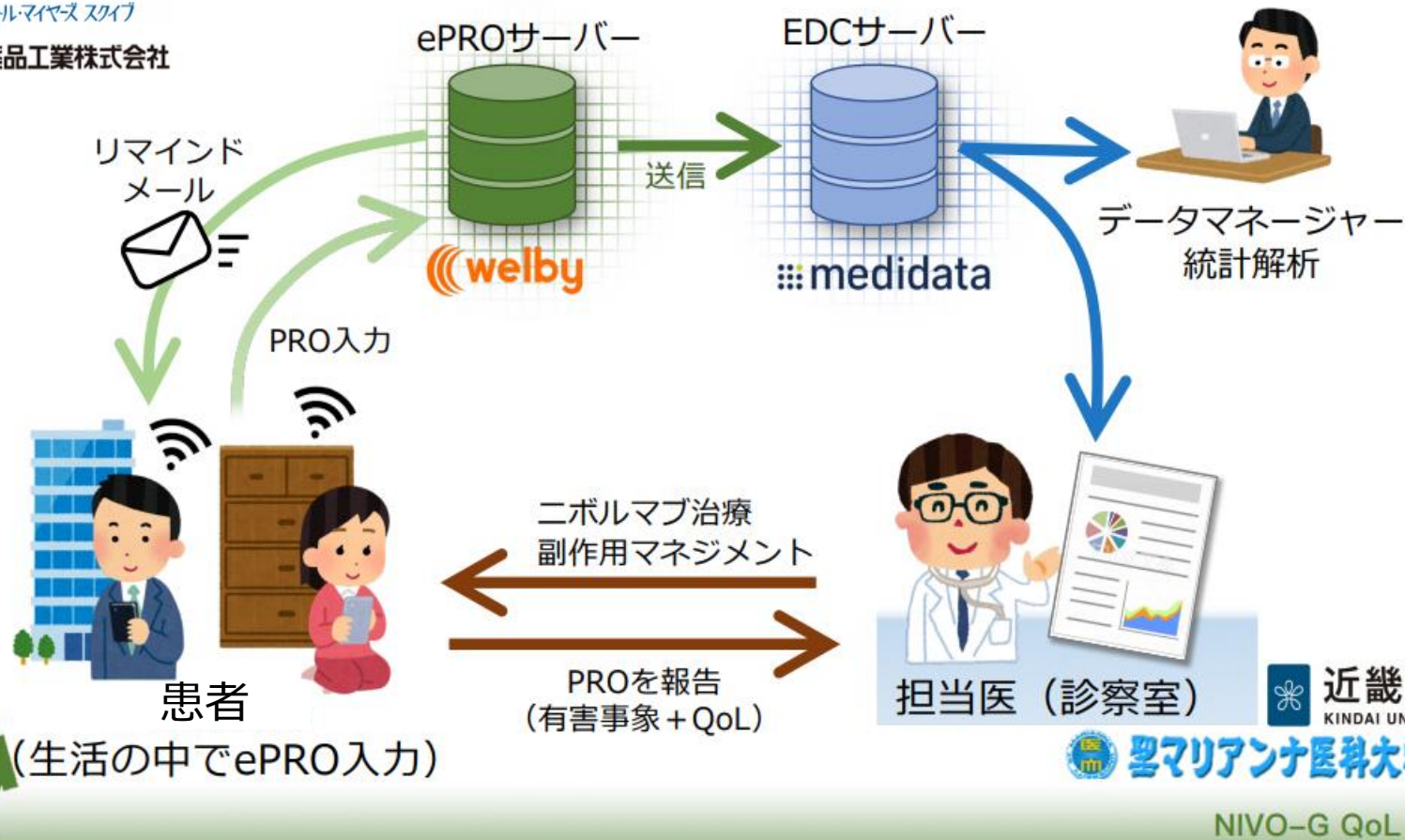
Point : スキンケア・お薬の使用状況とあわせ「かゆみ」の変化を振り返り

Point : アプリ専用のクラウドDBで画像保存するので、プライベート写真と分けて管理ができる！

- ①患者向け疾患啓発Webとの連動
- ②スキンケアアドバイスのインプット
- ③マイルストーンによる治療継続の仕掛け
- ④治療経過,かゆみ変化をグラフで振り返り

胃癌ニボルマブ療法におけるQOL前向き観察研究

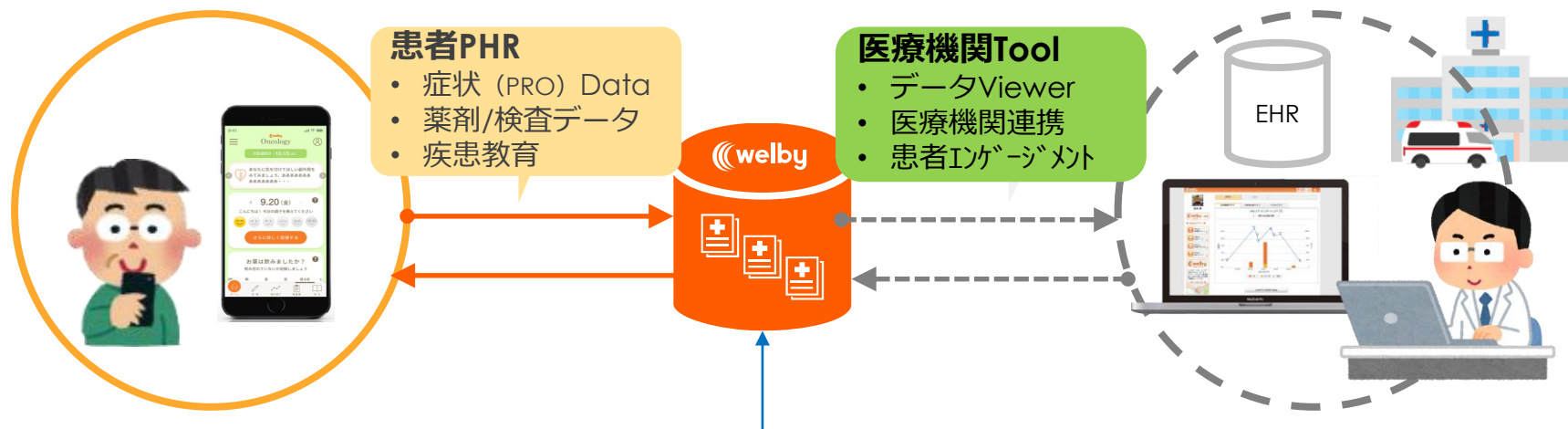
研究者主導臨床研究支援
プログラムより資金提供



※ ePRO = Electronic Patient-Reported Outcome
※ EDC = Electronic Data Capture

実臨床に有用なオンコロジー治療用PHRツールとしてマイカルテONCを普及 医療機関/企業などの情報提供・コミュニケーションをサポート

1 患者-医療機関：症状（PRO）の可視化とがん診療/治療体験の改善



2 製薬企業：医薬品×オンコロジーPHR

A) 医薬品の適正使用支援

- 注意すべき症状の可視化（症状記録促進と可視化）
- 治療，薬剤に関する基本的な情報提供の支援
- 記録情報（PHR）に基づき必要な情報へのアクセスを支援

B) 治療サポートによる医薬品効果の最大化

- 疾患教育及び症状マネジメントによる治療継続/アドヒアランス向上

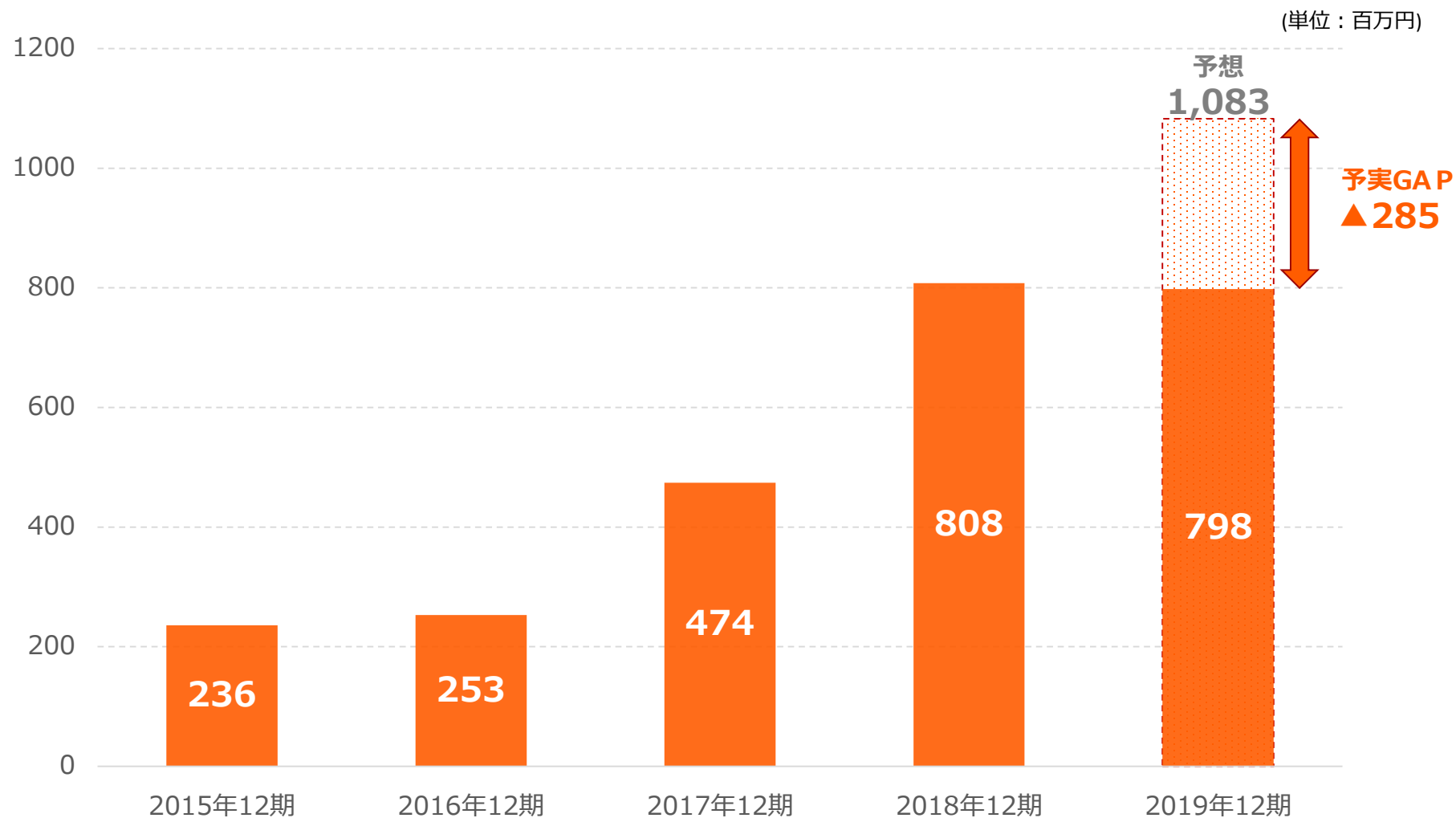
売上高は前期比▲1.2%

人員強化、品質やセキュリティ強化などコスト増により営業利益は▲139M

(単位：百万円)

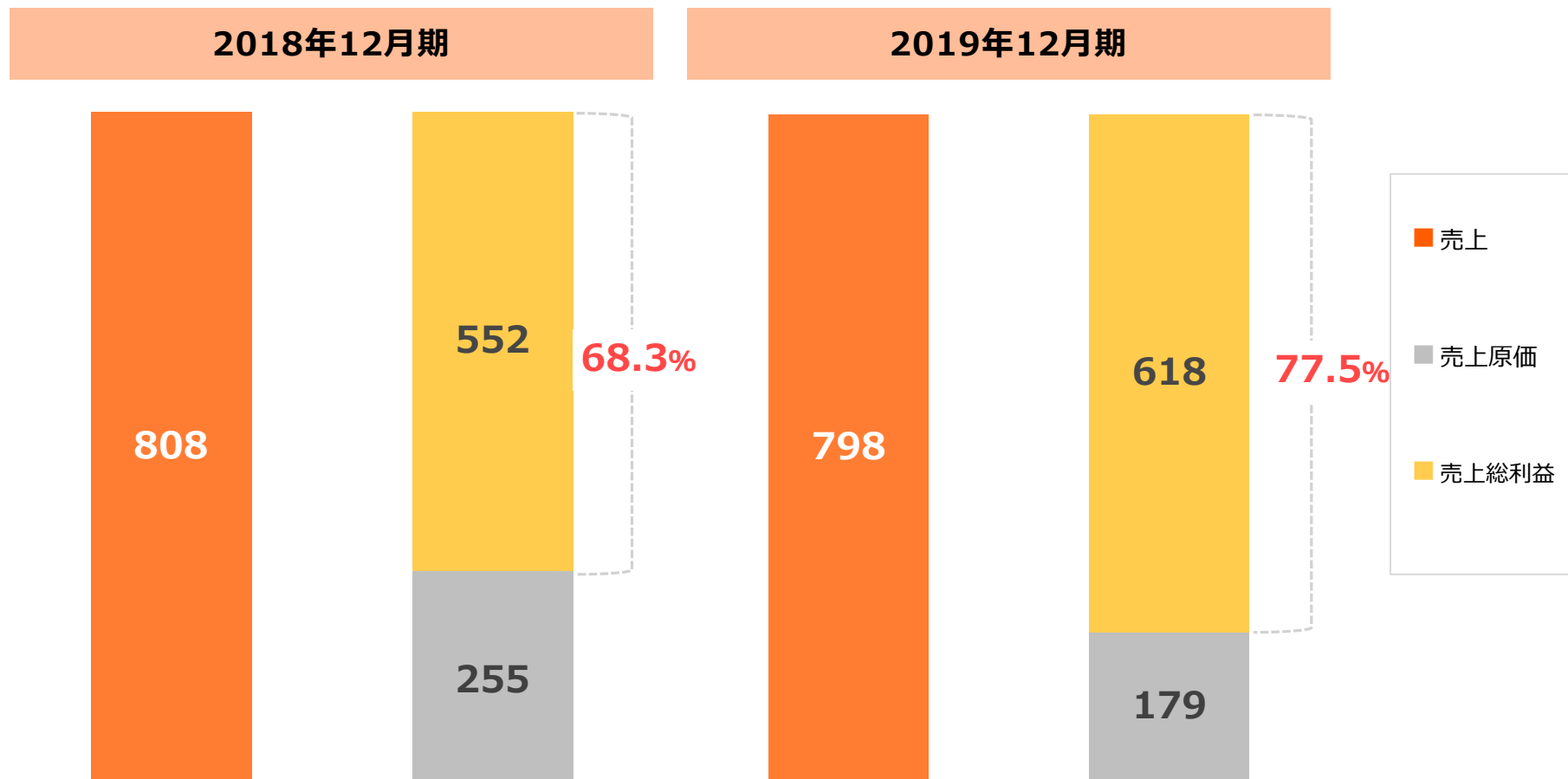
	2019年 12月期実績	2018年 12月期実績	増減額	増減率	2019年 12月期予想
売上高	798	808	-9	-1.2%	1,083
(疾患ソリューション事業)	624	626	-2	-0.4%	818
(マイカルテ事業)	174	181	-7	-4.0%	265
営業利益	16	156	-139	—	200
(利益率)	2.1%	19.3%	-17.2%	—	18.5%
経常利益	-1	153	-155	—	184
当期純利益	-11	176	-187	—	156

業績予想と実績のGAP▲285M



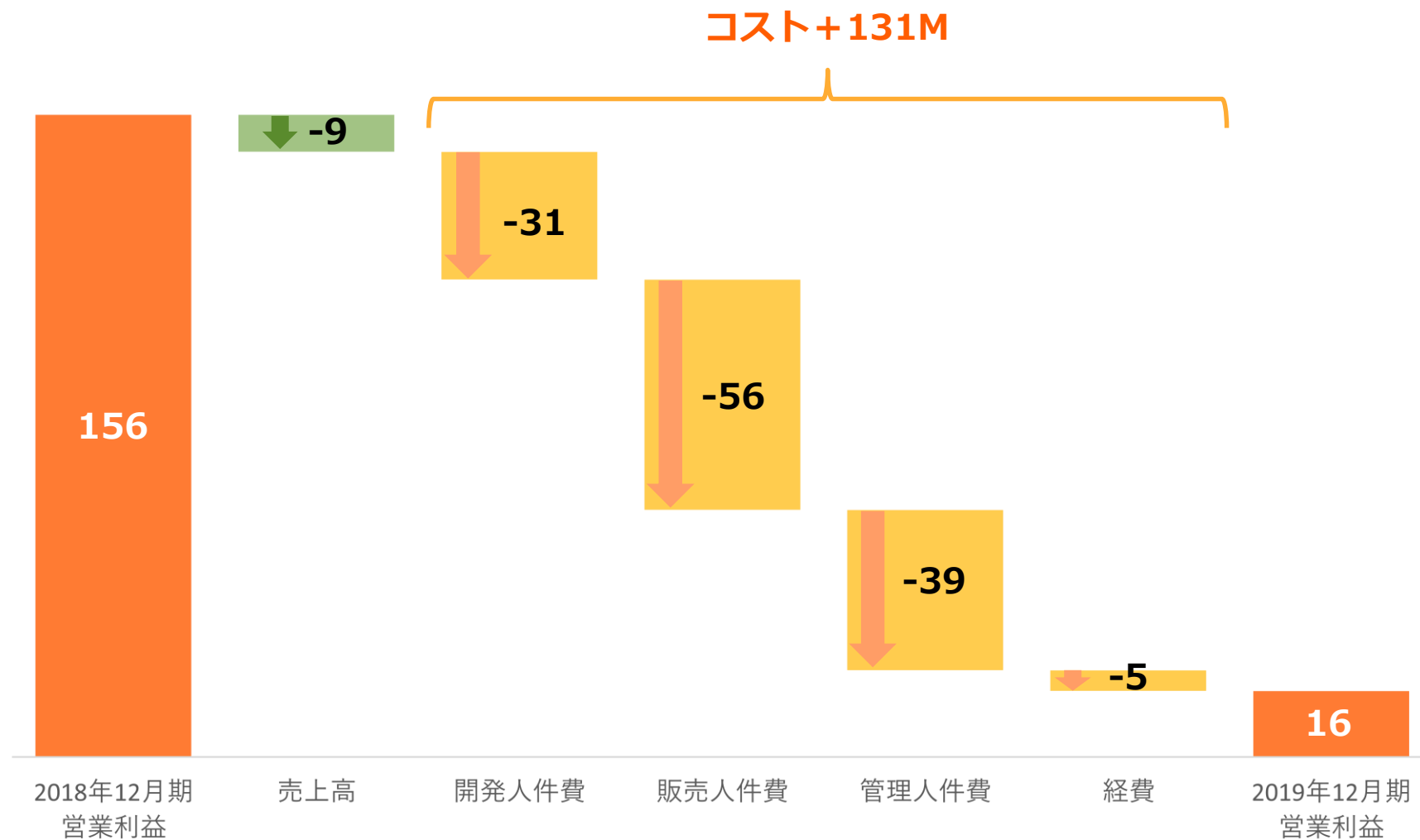
収益構造の変化により、売上総利益率の上昇 +9.2%

(単位：百万円)



中長期的な業容拡大のための人員投資を実施

(単位：百万円)



IPOに伴う公募で自己資本比率向上、財務CF増

(単位：百万円)

B/S

	2019年 12月期	2018年 12月期	増減額
流動資産	1,679	1,304	+374
固定資産	149	101	+48
資産 合計	1,829	1,406	+422
流動負債	138	133	+4
固定負債	22	29	-7
負債 小計	160	163	-2
純資産	1,668	1,243	+424
純資産 小計	1,668	1,243	+424
負債・純資産 合計	1,829	1,406	+422

CF

	2019年 12月期	2018年 12月期	増減額
現預金の期首残高	1,031	1,091	-59
営業キャッシュ・フロー	-168	-1	-166
投資キャッシュ・フロー	-83	-50	-33
財務キャッシュ・フロー	429	-7	+436
現預金の期末残高	1,208	1,031	+176

目次

1 会社概要

2 2019年12月期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

疾患ソリューション事業

製薬企業向け疾患領域別PHRのOEM開発の拡大

オンコロジー領域でのPHRサービスのリリース：対象がん領域での普及開始

臨床研究向けデータソリューション：結節性硬化症患者レジストリーなど

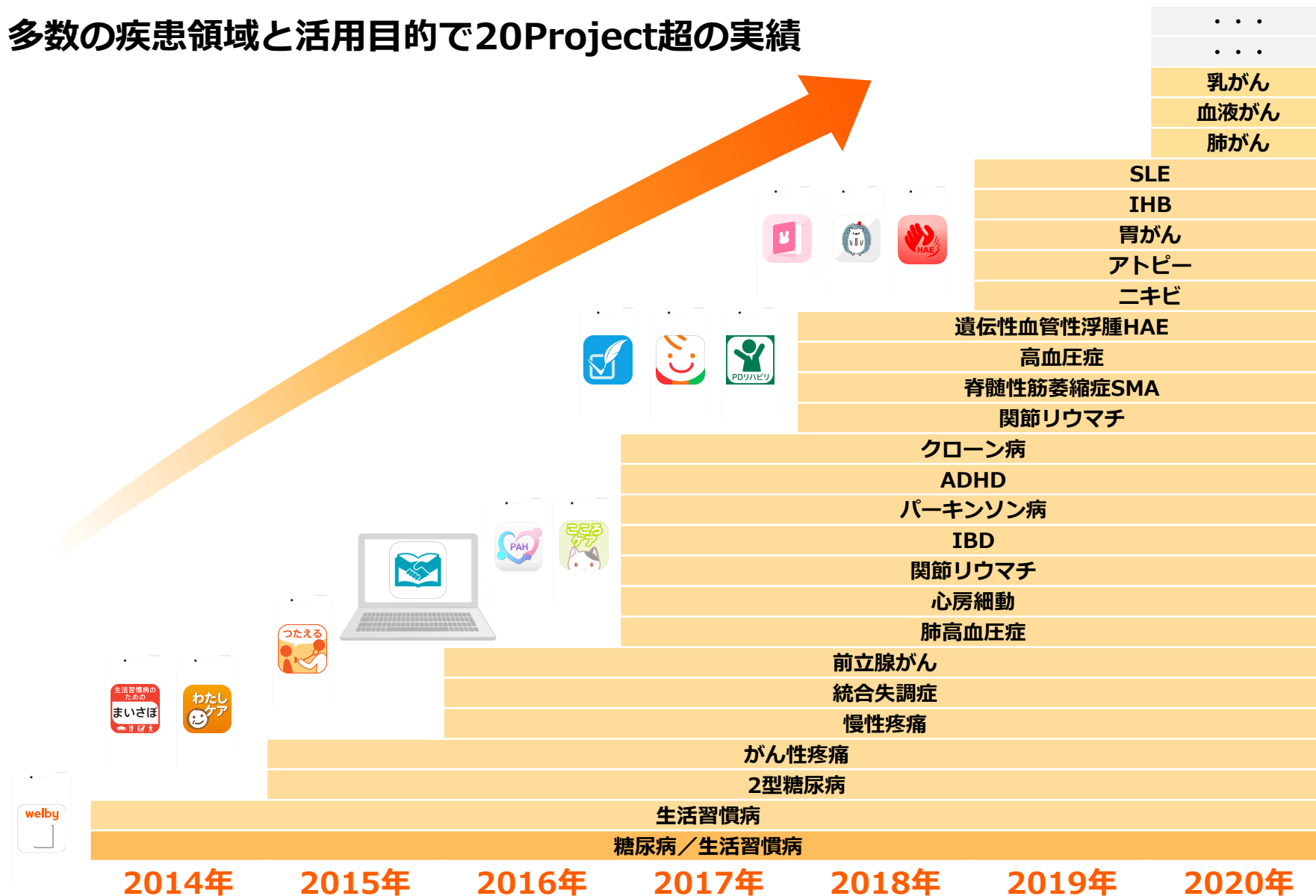
マイカルテ事業

「マイカルテ」の対象疾患領域の拡大及びエビデンス拡大：糖尿病、高血圧症

「マイカルテ」をベースとした商品開発を推進：疾患領域別のDTCなど

戦略パートナーとの連携によるPHRサービスの普及

多数の疾患領域と活用目的で20Project超の実績



様々な疾患において、自己管理支援・治療支援サービスを展開 今期も対象疾患領域の拡大を目指す



まいさぼ
(生活習慣病)
AstraZeneca
小野薬品工業株式会社



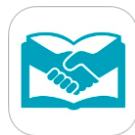
わたしケア
(2型糖尿病)
シオノギ製薬



らくらく血圧日記
(高血圧症)
タケダ



つたえるアプリ
(がん全般)
シオノギ製薬



腺ノート
(前立腺がん)
janssen



こころケア
(統合失調症)
meiji
Meiji Seika ファルマ株式会社



AOZORA
(成人期ADHD)
janssen



リハビリ日誌
(パーキンソン病)
大日本住友製薬



Welbyマイカルテ
(糖尿病・生活習慣病)



いたみ連絡帳
(慢性疼痛)
janssen



IBDサプリ
(潰瘍性大腸炎/クローン病)
janssen



リウマチダイアリー
(関節リウマチ)
ucb



PAHケアノート
(肺動脈性肺高血圧症)
日本新薬



SMAiLEE
(脊髄性筋萎縮症SMA)
Biogen



HAEノート
(遺伝性血管性浮腫HAE)
Shire



ニキビログ
(ニキビ)
maruho



アトピーログ
(アトピー)
maruho



マイカルテONC
(がん)



今期中受注見込



...

プラットフォーム活用により個別開発を要せず患者サポートが可能に

個別対応

1サービス/1製薬企業

潰瘍性大腸炎/ クロウン病 遺伝性血管性浮腫 (HAE) パーキンソン病



A製薬



B製薬



C製薬



- サービス開発に時間がかかる (半年~1年)
- 同じ疾患領域に対して複数製薬企業がPHRを提供する場合にサービスが乱立する

プラットフォーム対応

マイカルテONC (1サービス) / 複数製薬企業



記録データを共有 (2020年リリース)

情報提供 (患者教育)

症状記録・コミュニケーションサポート



患者サポートの場を提供

A製薬

B製薬

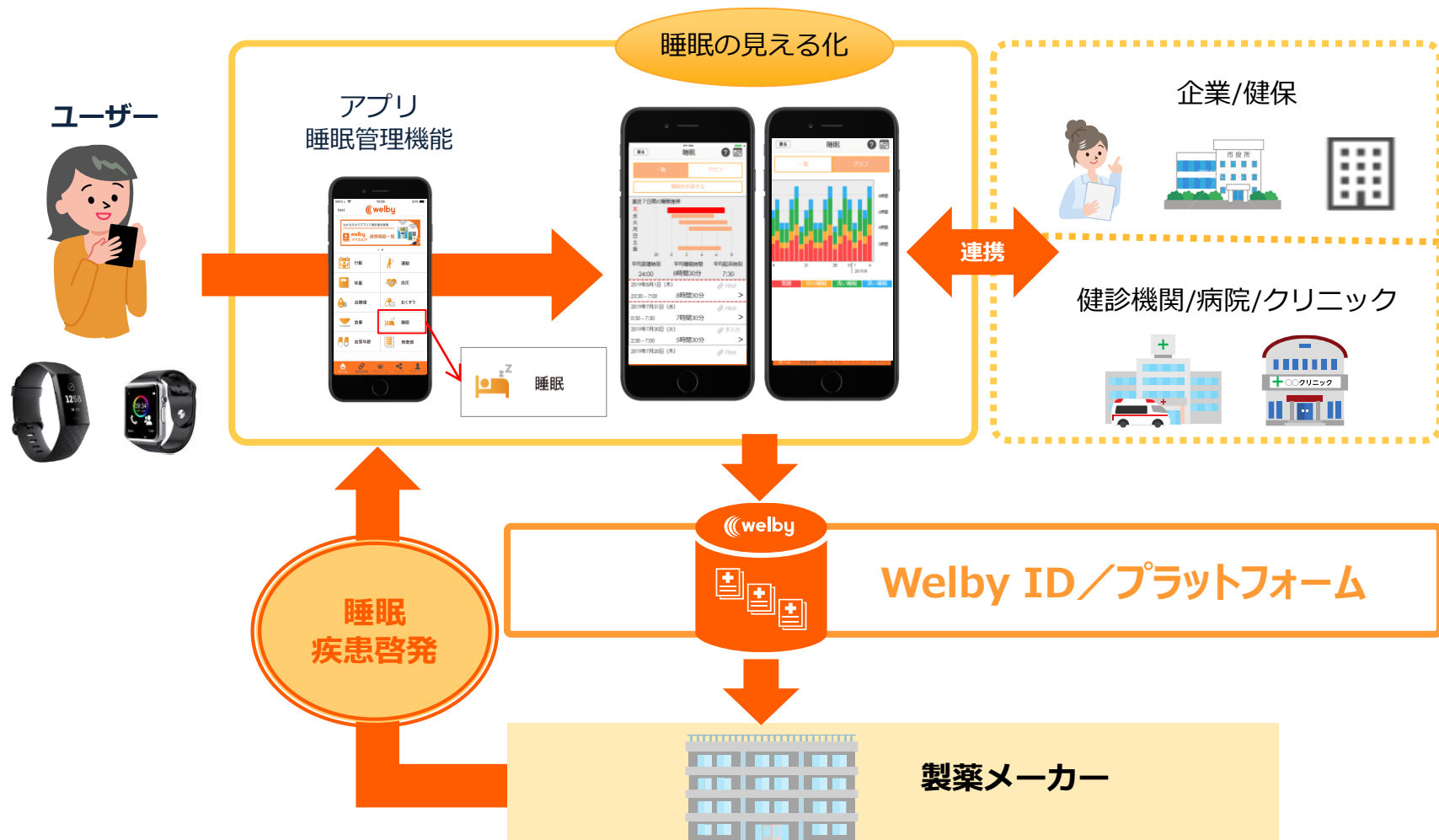
C製薬

個別サービス開発を要せず自社薬が処方されている患者へ患者サポートを提供可能に

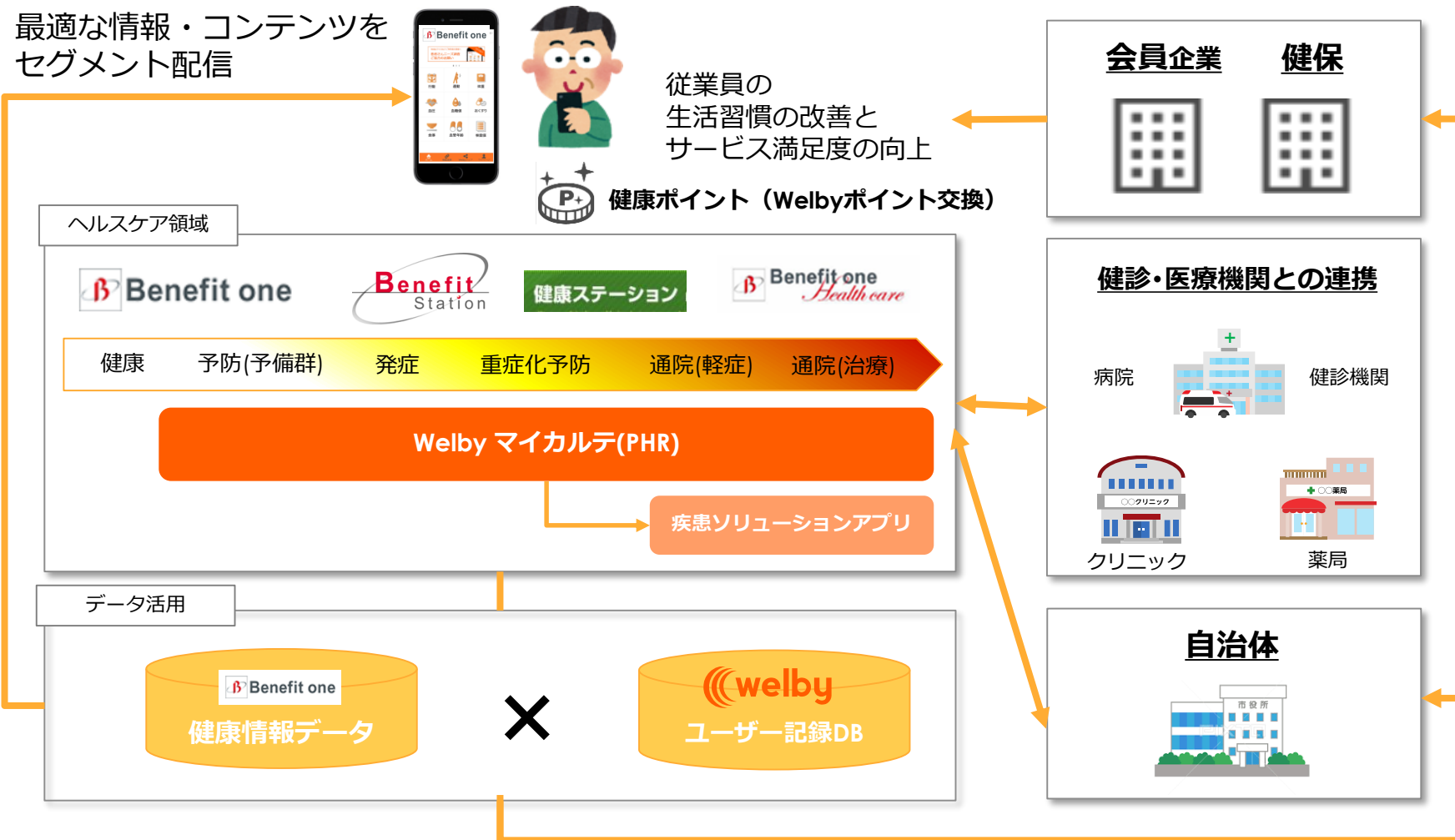
日本人結節性硬化症（TSC）の患者レジストリシステムの構築（JTSRIM）

 <p>— 医療の質を高めるための — 日本人結節性硬化症レジストリ JTSRIM</p>	目的
	1. TSCの国内の疫学情報の収集
	<ul style="list-style-type: none">-集団統計として年齢、性別-有病率、各症状の発現率、重症度分布などを総合的に把握-各年度における推移をフォロー-最短でも10年を想定
	2. 個々の患者ごとに複数施設にまたがる診療情報を一本化
	<ul style="list-style-type: none">-患者が自身の医療情報にアクセス-定期検査のリマインドや最新医学情報の配信
	3. 本レジストリのデータの研究利用

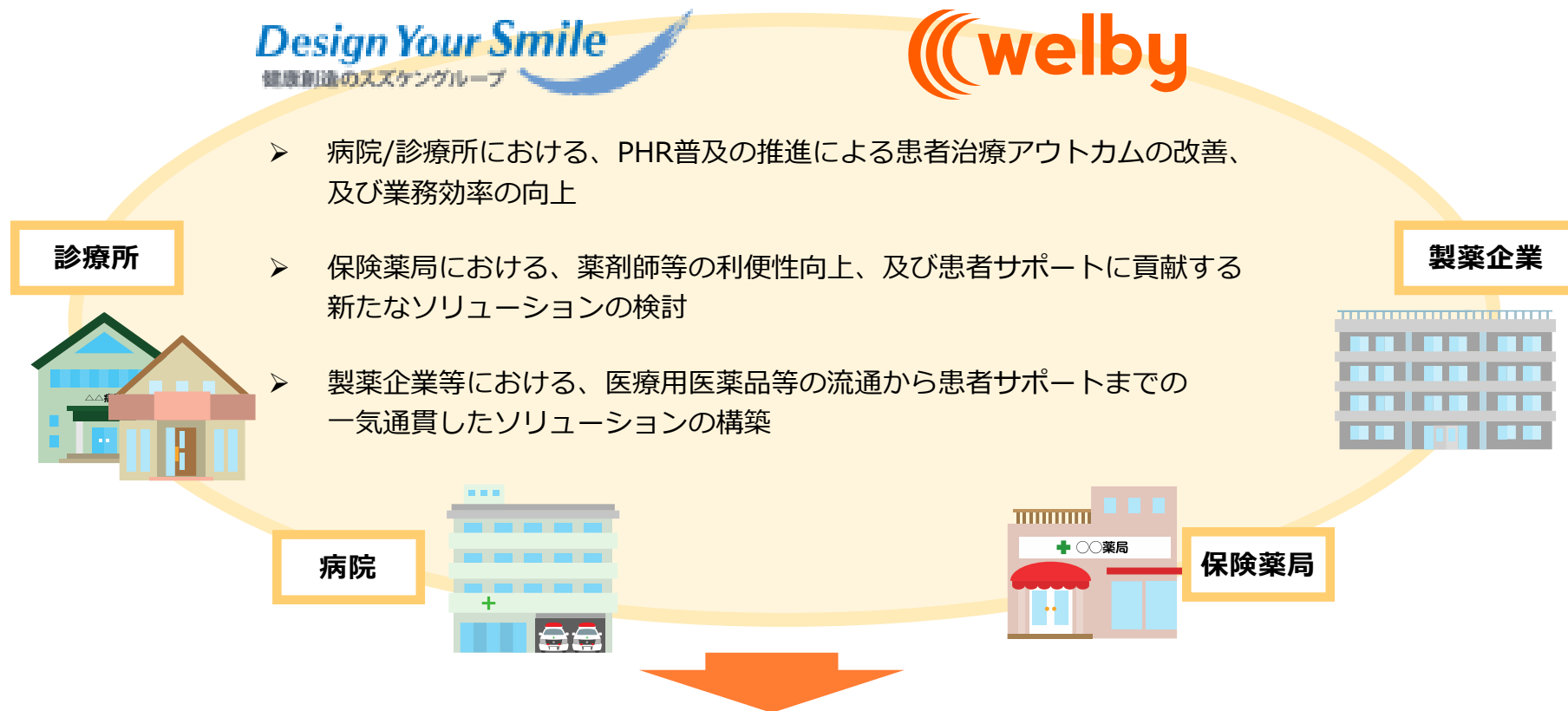
製薬企業とも連携し疾患啓発による受診勧奨や保健指導での活用により、
睡眠の改善や睡眠障害に伴う関連疾患の重症化予防へ貢献



企業・健保組合の従業員向けにライフログとしてPHRを提供、普及



医療機関、保険薬局、患者、製薬企業向けに両社共同でのソリューション提供により、新たな医療情報プラットフォームを構築



地域医療情報の連携を促進しつつ、
医薬品等の流通から患者の治療サポートまで一気通貫の体制を構築
両社連携による新たな医療情報プラットフォームの構築



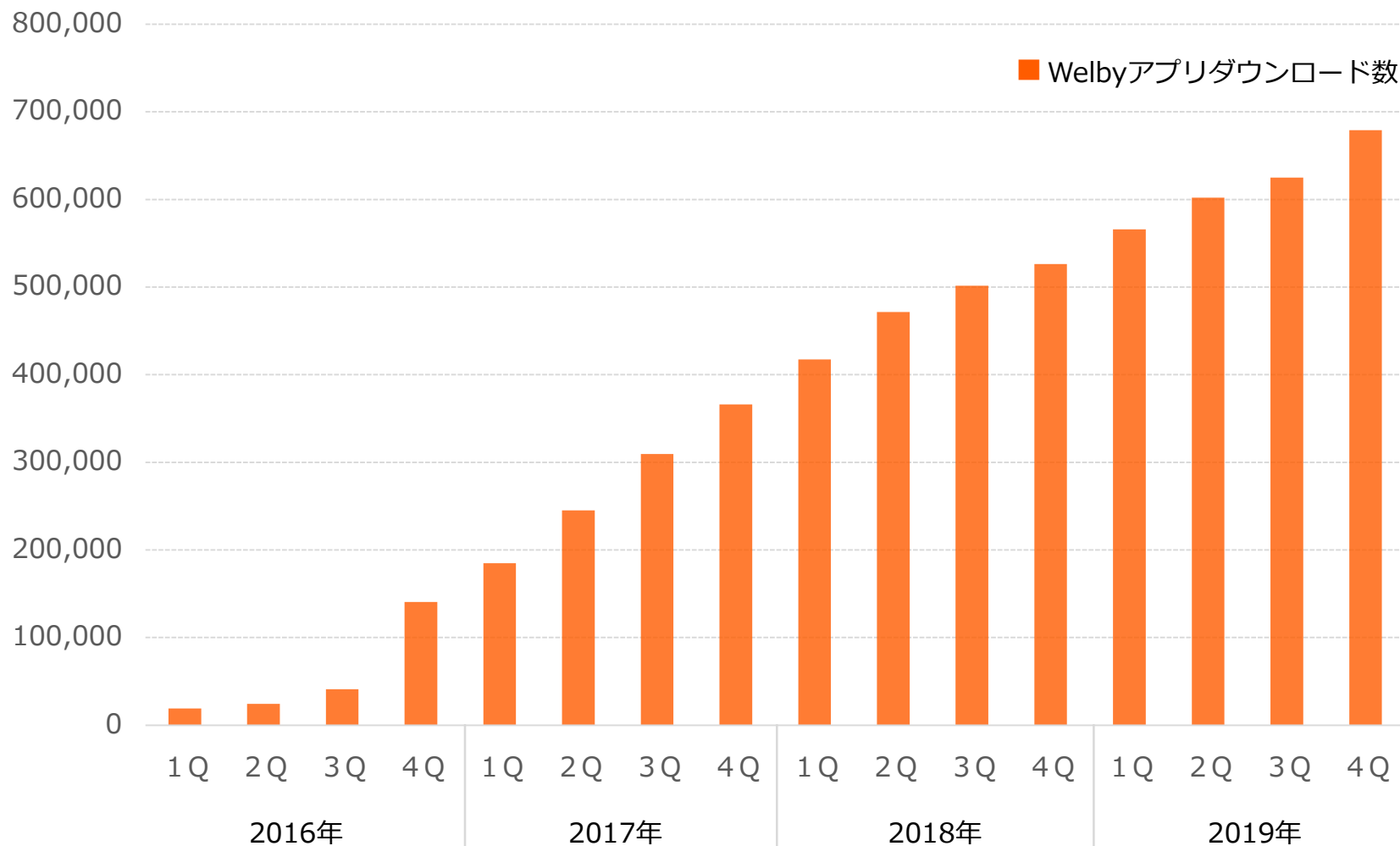
PHR利用者（患者/予備群）をターゲットした、疾患教育コンテンツによる疾患教育コンテンツによる病識向上・受診勧奨・リサーチを事業化



1. 対象疾患セグメント・ID単位での情報発信による疾患啓発
2. 疾患学習による病識向上・行動変容を促進
3. 患者/予備群へのセグメント別・ID単位でのリサーチ

19年12月末現在で68万人超に普及

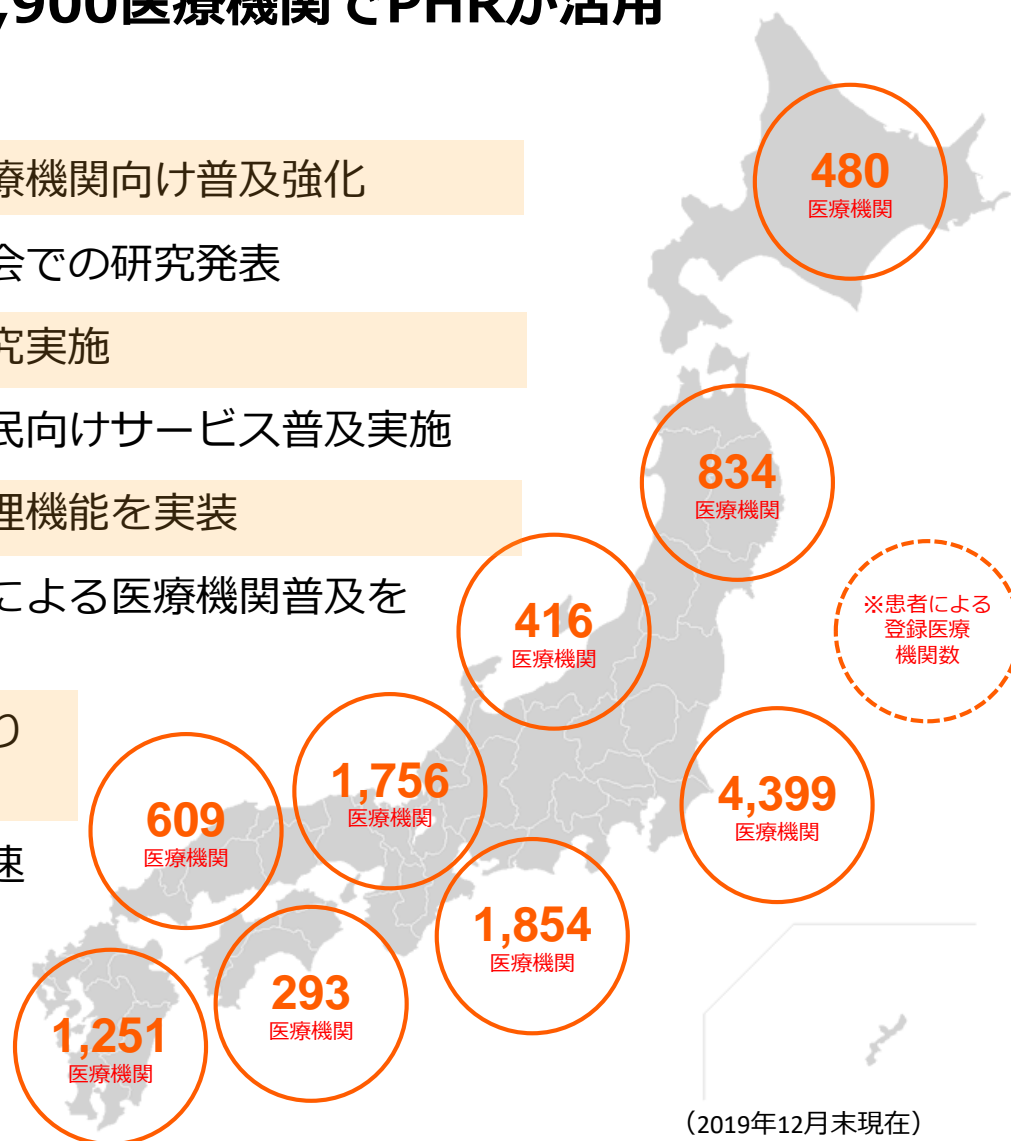
Welbyアプリ患者普及状況



医療従事者と患者の利用価値向上に取り組み、 大学病院、クリニックなど約11,900医療機関でPHRが活用

【2019年度の主な取り組み】

- ・ 医療機器メーカー、医薬品卸との医療機関向け普及強化
- ・ 糖尿病学会、臨床内科医会など各学会での研究発表
- ・ 徳島大学との糖尿病領域での臨床研究実施
- ・ 大阪、愛媛などで地域の開業医・住民向けサービス普及実施
- ・ 循環器領域向け不規則脈波検知の管理機能を実装
- ・ (株)エスアールエルと検査データ連携による医療機関普及を強化のため対応検査項目を拡充
- ・ (株)ベネフィット・ワンとの連携により企業向けサービス提供
- ・ 高血圧学会との連携により普及を加速



売上前期比+52%

引き続き事業成長のための投資による費用増を見込む

	2020年 12月期予想	2019年 12月期実績	差額	率
売上高	1,217	798	+418	+52.4%
(疾患ソリューション事業)	971	624	+347	+55.6%
(マイカルテ事業)	245	174	+71	+40.9%
営業利益	112	16	+96	+581.1%
(利益率)	9.2%	2.1%	7.1%	—
経常利益 (損失)	112	-1	+114	—
当期純利益 (損失)	78	-11	+90	—

目次

1 会社概要

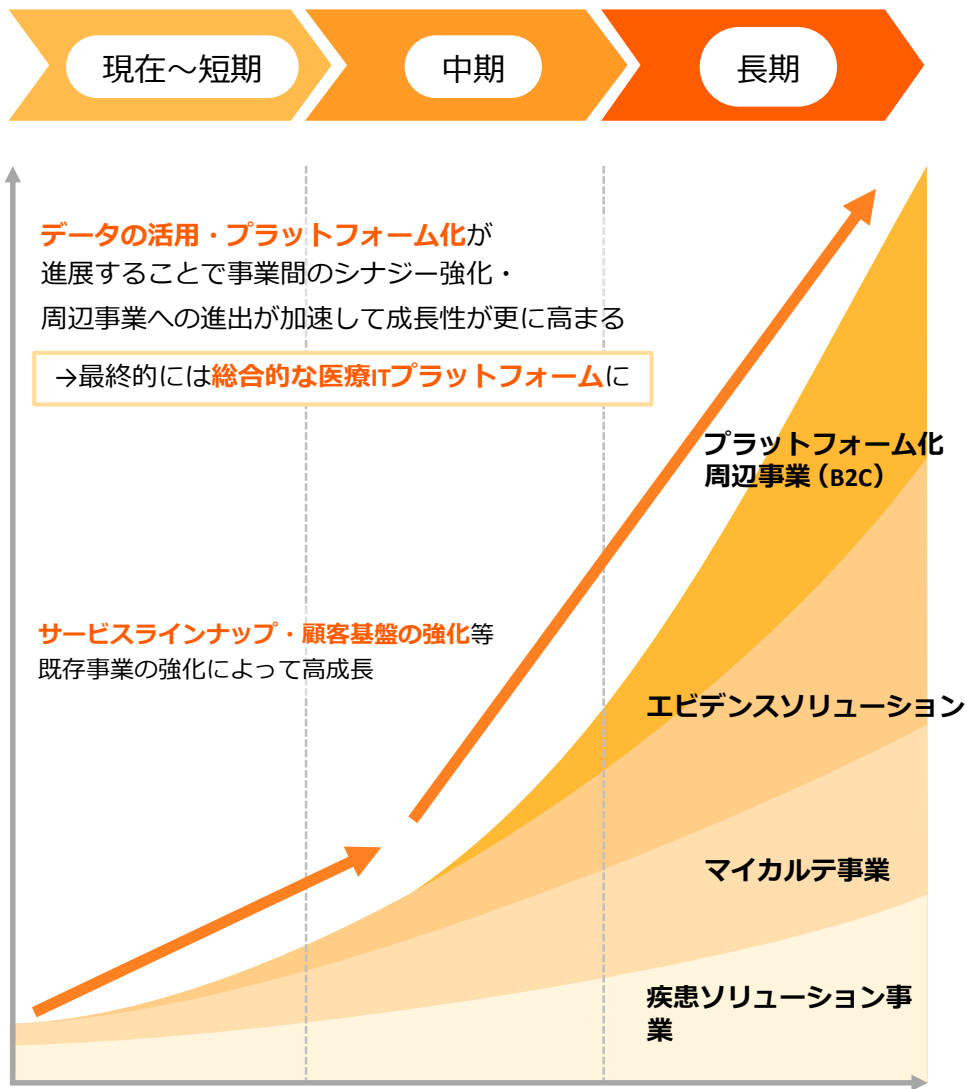
2 2019年12月期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

既存事業で拡大しつつ、以下三分野で更なる強化を図る



新規分野

✓ エビデンスソリューション

RWD (Real World Data) の活用：患者レジストリ、医薬品の開発、臨床研究、市販後調査など

✓ 疾患領域別プラットフォームの推進

オンコロジー等での疾患領域プラットフォームの開発、普及の推進（オンコロジープラットフォーム）

✓ PHR事業付加価値の向上（長期）

個人向けDTCサービス（疾患情報提供）、B2Cサービス（物販、コーチング）、医療機関向けCRM機能に加えて企業・健保組合向けなどPHRプラットフォームサービスの価値向上による収益機会の獲得

既存分野

✓ 疾患ソリューション事業：PHR適用対象疾患、対象薬品の拡大による収益拡大（マーケティング支援）

✓ マイカルテ事業：医療機関向け+企業・健保向け重症化予防ソリューションによる収益拡大

RWD (Real World Data) の活用による事業拡大

～メディカルマーケティングから、RWDによる新薬開発・研究に活用～

マーケティング利用



- ✓ 症状記録 (日記)
- ✓ 患者・医療者連携
- ✓ 患者教育ツール (Web連携)
- ✓ 服薬リマインダ・記録
- ✓ 早期検知・介入サポート

既存事業

医薬品の開発・研究に利用



- ✓ PRO (Patient Reported Outcome) の医療での活用
- ✓ ウェアラブルを活用した臨床研究
- ✓ 長期にわたる観察研究
- ✓ 市販後調査
- ✓ 医薬品の開発、適応拡大

新規事業

目次

1 会社概要

2 2019年12月期業績

3 今期重点取組施策進捗

4 今後の成長

5 参考資料

財務ハイライト

回次		第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
決算年月		2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月 [※]	2019年12月 [※]
売上高	(千円)	236,569	253,464	474,753	808,005	798,516
経常利益又は 経常損失 (△)	(千円)	30,057	△136,122	△76,092	153,959	△1354
当期純利益又は 当期純損失 (△)	(千円)	19,879	△136,412	△76,963	176,566	△11,303
資本金	(千円)	159,916	178,900	684,900	684,900	903,050
発行済株式総数	(株)					
普通株式		1,460	1,460	1,680	1,855,000	7,784,800
A種優先株式		147	175	175	—	—
純資産額	(千円)	230,171	131,726	1,066,763	1,243,330	1,668,327
総資産額	(千円)	318,094	211,416	1,227,179	1,406,481	1,829,182

※当社は2018年3月30日付で1株につき1,000株に分割し、2019年10月4日付で1株につき4株に分割しました。

本資料の取扱いについて

本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予測に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予測に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報、成長余力及び財務指標並びに予測数値が含まれます。将来予測に関する記述は、あくまでも当該記述がされた時点におけるものであり、将来変更される可能性があります。将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績や実績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績や実績は当該記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。当社は、財務上の予想値の達成可能性について明示的にも黙示的にも何ら保証するものではありません。

また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。

本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれています。

本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な経済動向に関する統計情報及び調査結果、外部情報に由来する他社の情報が含まれています。当社は、これらの情報に由来する情報の正確性及び合理性について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてもその正確性及び合理性を保証するものではありません。

